



先日、久しぶりに保育から離れた内容の本を二冊読む機会がありました。一冊は、「今現実には降りかかっている不幸は、幼少期に別離した母親のせいだ」という思いから脱却できないまま成長した主人公が、偶然にも母親と再会して一緒に過ごす中で、母親の思いに気づき始め、葛藤しながらも一歩踏み出していくまでの心の動きが描かれていました。そして、もう一冊はエッセイで、いたわりの気持ちや他人の痛みを感じることに、そしてやさしさという感情を、子どもの中から自己の中でしっかりと根づかせていくことの大切さを作者が訴えています。

現代の子どもたちは、生まれながらにして、欲しいものは足を運ばずして画面をタップするだけで手に入れることが可能な社会の中に「話は距離をとって最



今、大切にしたいこと

公益社団法人 倉敷市民間保育所協議会 副会長 荻野 佳子

中に生きています。また、ゆつくりとした時間が流れていた時代とは違い、次々と新しい情報に置き換わり書き添えて、時にはなかつたことのように忘れ去られていくこともあります。そして、大人も時代の流れの中でいつのまにかその情報社会の渦に巻き込まれ、日々の忙しさに追い立てられたりする中で、心のゆとりがもてなくなっていると感じることもあります。そのような社会で生き抜いていく子どもたち。今後、ますます利便性の追求が加速し、無駄と判断されたことが、削ぎ落とされていくことになっていくかもしれません。

小限に「黙食」「マスク着用」が常識になりました。少しずつ緩和されてきてはいるものの、人との触れ合いやかかわりをもつ機会が減少し、人間関係がより希薄になっていると感じます。園行事や学校行事も然り。コロナ禍以前は、小学校の入学式や運動会、卒業式に出向き、子どもたちの成長を感じたり喜んだりする機会が多くありました。「近くを通つたから、遊びに来た」という卒園児と懐かしい話をしたり在園児の遊び相手になってくれたりして、「楽しかったーまた来るねー」と帰ったあと、気持ちが高揚することも。今後、コロナ禍が落ち着いた時に、以前のようなかわりや触れ合いが戻ってくるのだろうか、という不安は拭えません。絵本や本などに触れて、空想の世界で想像力を膨らませることや、話を聞いてもらい温かく受け止めてもらうことなど、小さくても何気ないかわりや触れ合いは、ほっとできる時間であり、その中にはお互いを理解し合える大

小笹雄全先生 瑞宝双光章 受章

瑞璃山匠王寺持命院ご住職でもあられる小笹先生は、み仏様に見守られている子どもたちが何事にも自信を持ち、それぞれの個性を十分に発揮できるよう、常に斬新なアイデアで様々な活動を保育に取り入れてこられました。特に音楽活動では、定期的に専門家の指導を受けた子どもたちの活動意欲を高めるため、ご自身が発起人となり「倉敷幼児音楽協会」を設立し会長に就任、現在まで三十年以上にわたる「岡山県幼児マーチング大会」や「幼児音楽フェスティバル」を近隣園とともに継続開催されるに至っています。私共、公益社団法人倉敷市民間保育所協議会では、会長に就任され、カリスマ性をもって組織を牽引してくださいました。また、各種保育団体の要職も歴任され、その手腕を惜しみ無く発揮し現在も活躍されています。博識多才で、バイタリティー漲る行動力、かつ、何時もお洒落な小笹先生、いついっまでもお元気に活躍くださいますと共に、私共保育関係者にご指導をいただきましたくお願い申し上げます。



この度、令和四年秋の叙勲におかれまして社会福祉法人瑞璃会弘恵保育園（倉敷市広江）理事長・園長 小笹雄全先生が、「瑞宝双光章」の栄に浴されました。心からお慶び申し上げます。

【木のおもちゃ贈呈式】並びに【感謝状授与式】

別所皓二様、ありがとうございました

令和4年12月7日、くらしき健康福祉プラザホールに於いて、別所皓二様ご制作の手作りの木のおもちゃ（木馬3台、積み木付きトラック2台）贈呈式が行われました。

別所様は、平成17年度から今年度まで18年間にわたり、毎年、当協議会会員園へ、5台ずつ「木のおもちゃ」をご寄贈くださいました。そのおもちゃは、今年度で90台におよび、当協議会会員園全園へお届けすることが叶いました。

物作りが好きだったとおっしゃる別所様は、サラリーマンを退職後、専門学校で一から木工を学ばれ、栗や杉、タモの木の無垢材を使用した木の温かみが伝わるおもちゃを作ってくださいました。本年度、会員園全園に届けられたことをもって、今回が【最後の年】となりました。

別所様の長年のご制作に対しまして、会員園一同、心から感謝の意を表します。本当にありがとうございました。

また、そのご功績が認められまして、社会福祉法人倉敷市社会福祉協議会 会長 中桐泰様から別所様へ、感謝状が授与されましたこと、ご報告申し上げます。



倉敷市社会福祉協議会中桐会長様（左）から感謝状を授与される別所様（中央）ご夫妻



木のおもちゃ贈呈式

人形劇公演

令和4年10月27日～28日、倉敷市民会館ホールに於いて、3年ぶりとなる「人形劇公演」が開催されました。

劇団銀河鉄道のファミリーミュージカル『あかずきん』『みにくいあひるのこ』が上演され、3回公演に、倉敷市内・近隣から93園、約3千人の子どもたちが観劇しました。

新型コロナウイルス感染症対策について、十分留意し実施いたしました。久しぶりに大きなホールでの観劇会となり興奮気味の子どもたちでしたが、マナーを守り静かに観劇してくれました。

『おもしろかった～』と笑顔の子どもたち。秋晴れの下、徒歩で美観地区を散策される園もあり、道中、おやつにほおばったお団子が『うんめえ～』かったそうです。

来年度も、よろしく願いいたします。



次回は、令和5年10月26日(木)～27日(金)3回公演、倉敷市民会館ホール の予定です。

ちまた

『子育て』は子どもだけが育つように聞こえますが、実際には一人一人の子どもに関わるすべての大人も共に育っています。大人たちが子どものことを知ろうとしたり、子どもの興味ややる気をどうしたら引き出せるか考えたりする、その行為が大人をも成長させていくのです。なので、『子育て』は『親育て』『大人育て』とも言われているのです。また、そんなにも自分のことを考えてくれていることは子どもにも伝わります。自分のことを一生懸命応援してくれるって大変うれしく心強いことでしょう。尊重し合い共に育つ理想の姿です。

でも、実際に子育て中の保護者は不安を抱え、自信を失くし、孤独を感じています。子どもが生まれた時は幸せに育って欲しい、と期待と希望にあふれていたはずなのに、、、保育園・認定こども園は子育て中の保護者にとって頑張っていることを認め、ありのままを受け止める存在でいたい、と考えています。子どもの育ちを共に喜び、共に悩み、保護者に一人ではないことを感じてもらえたらと思います。子どもの成長には保護者の笑顔が必須です。いつどんな時も心豊かに過ごせ、子どもと保護者の成長に気付ける場所として利用してほしいです。

これからも地域みんなが尊重し合い笑顔で共に育つ社会づくりに努めてまいります。

保育園・こども園での成長を感じるほっこりエピソード

毎日の子育ては大変です。なかなか思う通りにはいかず、ストレスや疲れを感じている方も多いでしょう。でも子どもたちの可愛いつばやきや仕草、姿に触れると、癒されたり、成長を感じて嬉しくなったりして、**またがんばろう!**という気持ちになることもありますね。

保育園の日常には、そんな元気がもらえる成長のエピソードがたくさん! 各園から集めたエピソードをご紹介します。

歌や手遊びに親しみをもって真似っこする楽しさを味わっていますね。自分の欲求を相手に伝えることもできるようになっています。周りふれあって楽しい雰囲気が広がるっていいですね。

0 歳児

「ミックスジュースのうた」「ちっちゃい卵われました」「お弁当箱のうた」など、手あそびのある歌を歌うと、人差し指を出して「あっあっ」(もう1回)のアンコールが10回も。ぐずぐず言っていた子もご機嫌に。だんだん身振り手振りができるようになって、見てしていると幸せな気持ちになります。



いつも優しく見守ってくれる保育者がそばにいてくれるから安心して眠れたんですね。信頼関係がしっかりできていますね。

昼寝中、泣いて目を覚ましたTくん。ワーワー泣きになったので、抱っこして「Tくん ここにいるよ～だいじょうぶ」と言うと、少し目をあけてこくんとうなずき、しばらくするとすうっと眠りました。保育士の言うことをちゃんと分かってくれているんだと嬉しく思いました。

おもちゃの取り合いになって泣いている子がいました。他の子が寄ってきて、頭をなでなで。保育士が「優しいねー」と声をかけると、それを聞いた子どもたちが、かわるがわる泣いている子の頭を撫でにきました。そのうちおもちゃを取った子も頭「なでなで」に参加していました。

人との関わり、お友だちへの興味が芽生えています。大人にしてもらった経験が優しさにつながっていますね。「自分もほめられたい」とみんなで頭をなでている姿、とても可愛いです。



トイレでおしっこできる気持ちよさを感じられ、その嬉しさを表現できていますね。

1 歳児

トイレでおしっこできたYくん、「わあー、いっぱいだよー」「すごいねー」といって手をたたいていました。

3 歳児

Dくんがトイレに行こうとスリッパを履きかけたところで、後ろから友だちが「おしっこ～もれる～」と言いながら急いでやってきました。Dくんはスリッパをわざわざ脱いで「どうぞ」と順番を譲ってあげていました。

お友だちの切羽詰まった様子に、譲ってあげない!と思ったのですが、相手の状況を考えて行動する力が育っていますね。

かけっこの練習中、恥ずかしくて走れないお友だちに

じゃあ一緒に走ってあげるよ



5 歳児

年長の女の子。鼓隊練習の後、太鼓のホルダーを降ろしながら「肩がいたかったあ…」とつぶやきました。隣にいた女の子が声をかけてくれました。「それはがんばった証拠だよ!」

運動会の練習後、疲れた子を労わる優しい年長さん

一生懸命頑張ったね!



豊かな感性を育てていくには…

子どもが感じたり、考えたり、行動(表現)したりするのを、大人がじっくりと受け止めてあげることが大切です。

「ダメ」とか「それは変だ」という『大人の考えの押し付け』ではなく、寄り添って共感してあげること。その子らしい『感じ方』を認めていくことで、個性的で自由な感性が育っていきます。

「太陽の味」がする



自分たちが栽培収穫したものは格別です! 美味しさの表現がステキ!

仲間意識が高まり、友だちと協力して頑張る力が育ってくる5歳児の時期。仲間を励ましたり認めたりする言葉かけもできるようになっているね。言われた子もきっと元気が出たと思うよ。

子どもの思い付きに共感することで発想力がより豊かになってくるのですね。「大冒険」…物語が始まりそうですね。

給食時「お豆が落ちたよ」と知らせると「あらっ、グリーンピースの大冒険だわ!」発想が可愛い子どものつぶやき。



給食の時「これ、誰がつくったの?」と聞くAちゃん。「給食の先生だよ」と答えると、「ありがとうって言わないとね」と言ってニコニコしながら「おいし～」と食べ始めました。

おいしい食事を誰が作ってくれたのか興味を持ち、料理してくれた人に「ありがとう」の気持ちが持てるようになっていきますね。

大好きなおじいちゃんを心配する姿、またお友だちの気持ちを汲んでお空にお願いする姿。人を思いやる気持ちが育ってきているんですね。周りも優しい気持ちになれます。

2 歳児

カミナリが鳴り始めた外をながめ、「じいちゃん、だいじょうぶかなあ」と心配する、おじいちゃん大好きなCちゃん。「きつと、だいじょうぶだよね」とお話していると、それを聞いていたEくん。両手を口当てて、お空に向かって叫びました。「もう、おわって～」



4 歳児

「保育園の牛丼、たまらなくおいしくて好き!」給食室にどうやって作るのか尋ねに行き、レシピをもらったFちゃん。「お休みの日にクッキングで牛丼作ったよ。おいしかった」保護者の方もとても楽しい時間が過ごせたと喜ばれていました。



保育園の牛丼よほどおいしかったんだね!「自分で作ってみよう」という意欲がすごい。そんな子どものやる気を受け止めた保護者の方。素晴らしい親子の関わりができていますね。親子でのこのような体験が更なる意欲や食への関心につながっていくと思います。